【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート ＜年度末＞

学校名（ 四日市中央工業高等学校 ）

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○校訓「誠実 努力 親切」及び「四中工はあなたの能力を伸ばします！」の指導方針のもと、学習者の視点に立って、安全で安心な教育環境を全教職員が一丸となって構築し、生徒・保護者・地域の方々に信頼される工業高校を目指します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	○基礎学力と基本的生活習慣が確立し、主体性と他者との協調性を兼ね備え、将来、各分野のスペシャリストとして地域の産業の発展に貢献することができる。
	ありたい教職員の姿	○社会が求める人材を育てるため、教員自らが、たゆみなく授業力の向上に努力できる。 ○共同による取組により組織力を高めることができる。 ○幅広い社会性と人間性を磨くとともに、ワークライフバランスの充実に努める。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒＞ 分かりやすく丁寧な指導を望み、社会で役立つ知識や技術を身につけたい。 ＜保護者＞ 生徒が充実した高校生活を送り、希望する進路実現が果たせるよう、しっかりと指導してほしい。 ＜企業・大学＞ 基本的な生活習慣を身につけ、基礎学力やコミュニケーション力を持ち、社会人として組織の中で、明るく元気に能力を発揮出来る力を身につけてきてほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家庭＞ 安全で安心な教育環境のもと、生徒の能力を伸ばして欲しい。 ＜企業・大学＞ 原理原則・基礎基本を身につけ、挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣を確立された、明るく元気で組織の中で能力を発揮できる人材が欲しい。 ＜地域社会＞ 生徒の地域社会における規律遵守と地域行事への参加等協力が欲しい。	＜家庭＞ 学校の教育方針への理解と協力、及び躾等での家庭の立場で学校を応援してほしい。 ＜企業・大学＞ 継続的な受け入れをして欲しい。技術指導等、外部教育の面で協力して欲しい。 ＜地域社会＞ 地域が学校と手を携え、一緒に子どもたちを育てて欲しい。

(3)前年度の学校関係者評価など		○一人一台パソコンに活用については、授業での利用以外での使用も含めてさらに進めるために、校内研修を充実させる。 ○今年度の取組を継続、さらに発展させ、引き続き、人権感覚豊かな学校環境づくりに努める。 ○通学における交通安全指導を、地域や警察と連携しながら推進し、生徒の生命の安全の確保に努めると共に、実習中の事故への備え、未然防止の取組を進める。 ○教職員のコンプライアンス意識の向上と不祥事の根絶を目指して、校内研修を進める。 ○働き方改革を推進し、一部負担の大きい部への顧問の適正配置、や業務の効率化、会議の効率化と時間短縮等に取り組み、ワークライフバランスの充実と教職員の心身の健康状態の改善に努める。 ○生徒募集が厳しさを増す中、中学生や保護者に希望進路の実現についての充実した成果や部活動に加え授業等の工業高校の魅力をもっと伝えるよう、さらに努力する。
(4)現状と課題	教育活動	従来から大切にしてきた基礎基本の習得に、引き続きより一層の力をいれるとともに、新学習指導要領に基づくカリキュラムをもとに、ICT の活用による生徒が主体的に取り組む授業の開発と、適正な観点別評価、また、主体的な進路選択のためのキャリア教育の充実、コミュニケーション力の養成が必要となっている。
	学校運営等	中学校や地域、企業からの評価は高い。工業高校生として専門分野に精通し、変化の激しい社会に対応できる力を身につけるとともに、部活動等を通して磨かれる強い精神力と身体を兼ねそなえた職業人を育成するため、組織力向上の取組を充実させる必要がある。 また、教職員のコンプライアンス意識の一層の向上と、業務の効率化による教職員の総勤務時間の縮減に、引き続き取り組んでいく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○「四中工はあなたの能力を伸ばします！」の指導方針のもと、生徒の主体的・対話的な学びを重視し、基礎学力の向上に取り組む。 ○工業に関する機械、電気、化学工学、都市工学、設備システムの基礎的な知識と技能を身につけるとともに、高度な資格取得にも対応できる取組を行う。 ○3年間を通した系統的なキャリア教育を行い、職業観や勤労観を身につけるとともに、組織の中での対応力やコミュニケーション能力の向上に取り組む。 ○部活動やホームルーム活動等の特別活動を充実させることにより、生徒の自己肯定感を高め、自主自律の精神を養う。
学校運営等	○授業公開、小グループによる研究授業等を行い、生徒に提供する授業内容の改善と、すべての教員の授業力向上を図る。 ○すべての教職員が課題を共有し、協働して学校の活性化に努めるとともに、積極的な広報活動により、四中工の教育活動の内容、工業高校としての魅力を地域や中学生に発信する。 ○全教職員が組織の目的を共有する対話の場をつくり、教育活動全般の刷新と業務内容のスリム化や課外活動における指導方法の工夫等により、働き方の改善を図る。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○工業高校への志望動機が明確で、将来の進路に対する目標や目的意識を持っている人 ○工業学科の学習に興味・関心があり、資格取得に意欲的に取り組める人 ○部活動やホームルーム活動等に積極的に取り組める人

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	・新学習指導要領を踏まえて、生徒の主体的・対話的な学習活動を展開する。朝学習と学びの基礎診断の有効活用により、生徒一人ひとりの基礎学力の定着と向上を図る。 【活動指標】 ・朝学習を年間計画に組み入れて実施 学びの基礎診断テストを活用し学習の成果を検証 ・ICTを活用した授業及びグループ活動やプレゼン活動等の生徒の主体的な学びを取り入れた授業を展開 【成果指標】 ・朝学習を通し、1年間で学びの基礎診断の評価が上がった生徒 30%以上 ・ICTを活用し、グループ活動や生徒によるプレゼン活動を実施している教員 100%	・朝学習は計画通り14回実施した。学びの基礎診断の結果、国数英の全国偏差値は、1学年全体が前回・前年比較でともに大きく上昇、2年生全体が前回比較でやや下がったものの、前年比較ではほぼ同じ数値となっている。 ・ICT を活用したグループ活動・プレゼン活動については、66%であり、目標達成とはならなかった。	◎
キャリア教育の充実	・ポートフォリオ・HANDY を活用しながら、低学年から系統的にキャリア教育に取り組み、職業観や勤労観を身につけるとともに、組織の中での対応力やコミュニケーション能力の向上を図る。 【活動指標】 ・すべての生徒が進路に向けての学習・活動内容をポートフォリオとして整理 ・2学年全生徒がインターンシップに参加 【成果指標】 ・生徒の進路決定率 100%	3年生 就職:100%達成 進学:数名未決定 2年生 HANDY の導入 1年生 HANDY の導入 企業セミナーの実施	◎

人権教育と生徒指導の充実	・人権感覚豊かな学校環境づくりと仲間づくりを進め、命を大切にする心を育む。 ・SNSでの誹謗中傷、いじめを無くす取組を進める。 ・交通事故防止に向けた取組を、年間入学してくる生徒の学力が通して実施する。 【活動指標】 ・SNSに係る講話、命の大切さを伝える授業を実施 ・人権講演会、LHR の他、学校行事や通常の授業も活用した教育活動全体での人権教育の展開 ・日常の指導に加え、交通指導強化週間の取組を関係機関と連携して実施 ・学校内でのスマートフォンの使い方・ルールを徹底し、規範意識を育む。 【成果指標】 ・アンケートで「安心して学習できる」と答えた生徒の割合　90%以上 ・「いじめによる重大事態」発生　なし ・通学時、本校生徒の加害による交通事故発生　なし ・スマートフォンなどによるながら運転や歩行での事故　なし	・登下校指導を4回行い、自転車での通学マナーなどを指導した。また、四日市自動車学校と連携し、1年生向けに交通安全講話も開催した。しかし、本校生徒が加害の交通事故が発生している。 ・学校名でのスマートフォンのルールを徹底し、ながら運転や歩行での事故はない。 ・いじめによる重大事態発生はないがいじめは以前より認知が増加傾向にある。人権教育と連携して、いじめをなくす取り組みを進めたい。	◎
改善課題			
・基礎学力手定着については一定の成果が上がっているが、ICT の活用については課題が残っている。 ・進路指導面では高いレベルの結果が残せており、企業セミナーの拡充等により、さらなる充実を図る。 ・交通安全指導については校外の諸機関との連携を進める等、取り組みを進めていく必要がある。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい職場環境づくり	・県立高等学校活性化計画を踏まえ、教職員の協働と課外活動における指導の工夫等により、働き方改革を進める。 【活動指標】 ・週１日の定時退校日を設定し、定時に退校できた教職員の割合　90%以上 ・週１日以上の部活動休養日を設定し、予定どおり実施できた部活動の割合　95%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合　90%以上 【成果指標】 ・時間外在校時間が年360時間を超える教職員数　0人 ・時間外在校時間が月45時間を超える教職員数　0人 ・一人当たりの月平均時間外在校時間　15時間以下 ・一人当たりの年間休暇取得日数　20日以上	・活動指標についてはおおむね達成できているが、成果指標については達成できていない状況が改善されていない。 ・時間外在校時間 360 時間超職員９人 月 45 時間超職員 17 人 月平均時間外 21.6 時間	

信頼される学校づくり	・「学校信頼向上委員会」において本校の課題を洗い出し、「信頼される学校であるための行動計画」にもとづいて、オール四中工でコンプライアンス意識を高め、人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。 ・教職員間のコミュニケーションを密にし、個人で抱え込まず組織として業務を行う体制づくりを進める。 【活動指標】 ・学校信頼向上委員会　年3回開催 ・コンプライアンスにかかる研修　年3回実施 【成果指標】 ・本校教職員によるコンプライアンス違反　なし ・保護者アンケート及び生徒アンケート 肯定的評価　全項目90%以上	・活動指標については達成できている。 ・成果指標のアンケートについては未集計、コンプライアンス違反は発生していない。	
地域社会に貢献できる学校づくり	・工業高校としてのものづくり教育を充実させ、その成果や教育活動の内容を地域へ積極的に発信し、学校に対する理解を深め、地域との結びつきを充実させる。 ・学校ホームページの充実、公式インスタグラムの開設など、デジタルによる広報活動にも努める。 【活動指標】 ・本校職員による中学校等での出前授業　3回以上 ・市内全中学校へ本校職員による訪問を実施 【成果指標】 ・公式インスタグラムのフォロワー数　2000 人以上	・活動指標については達成している。 ・成果指標については、公式インスタグラムの更新が頻繁にできず、達成できていない。 フォロワー数　880	
改善課題			
・部活動指導を担っている一部の教職員の時間外在校等時間の削減については、現制度下では限界があるため、健康被害を出さないよう、十分に配慮していく必要がある。 ・校外への情報発信については、撮影機材の購入と使用ルールの整備を進める必要がある。			

6　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・働き方改革を進めるとともに、中学生にとっても教職員にとっても魅力績な学校づくりを進める必要がある。 ・部活動に打ち込む生徒が入学してくるよう、施設の整備や保護者負担の軽減を進めて欲しい。 ・地域の企業とも連携し、工業高校の魅力をしっかりと発信してほしい。 ・交通安全については継続して実効のある指導を進めて欲しい。 ・学校信頼に関わる不祥事については絶対に起こさないようにしてもらいたい。

7　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・従来から大切にしてきた基礎基本の習得に、引き続きより一層の力をいれるとともに、ICT の活用による生徒が主体的に取り組む授業の開発に努める。 ・主体的な進路選択のためより一層のキャリア教育の充実に力を注ぐ。 ・学校生活における生徒の安全と安心を大切に、指導の充実に努める。
学校運営についての改善策	・工業高校としての魅力を中学校や地域、企業により幅広く発信することで、入学生徒の確保と進路の充実に繋げていく。 ・教職員のコンプライアンス意識のより一層の向上を目指し、計画的な研修を実施する。 ・業務の効率化による教職員の総勤務時間の縮減に引き続き取り組む。